

北陸観測所 30 年間の地震観測 (2)

Microearthquake observation for 30 years by the Hokuriku Observatory(2)

- 竹内文朗・澁谷拓郎・松村一男・平野憲雄・西上欽也・岡本拓夫
- Fumiaki Takeuchi , Takuo Shibutani , Kazuo Matsumura , Norio Hirano  
Kin'ya Nishigami , Takuo Okamoto

The Hokuriku Observatory started on 1974 with 7 microearthquake observation points. And the observation system had been changed to the telemeter system on 1976, more than 30 years ago. The observed data were included with those of the Abuyama Observatory, Japan Meteorological Agency (JMA) and **National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention (NEID)**. Here the relations between the seismicity and those of Gutenberg's b-value will be shown.

北陸観測所では福井県、石川県、滋賀県に7 点に配置された観測点で、1976 年よりテレメータ方式の観測が始まり、今日に到っている。1997年からは気象庁一元化データとして纏められ、北陸域の観測点数は数十に及んでいる。ここではそれ以前の阿武山観測所、気象庁データも合せて読み取りデータと作成し、震源再決定を行い、その結果について主として b 値を調べた。

ともにグーテンベルグリヒターの b 値の時間変化について調べた。1995年の兵庫県南部地震前の b 値は、より遠い福井地震断層周辺 (Fig.2) では変化がなく、より近い琵琶湖を挟む琵琶湖西岸や柳ヶ瀬断層周辺 (Fig.3) では、増加していたと考えられる。講演では更に詳しく述べたい。

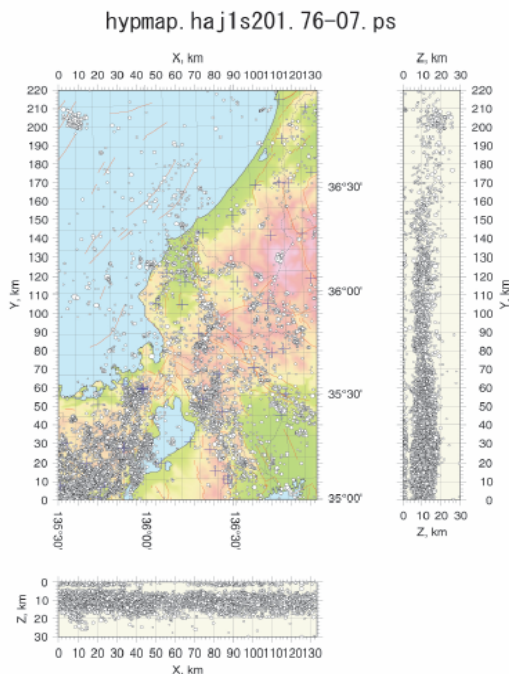
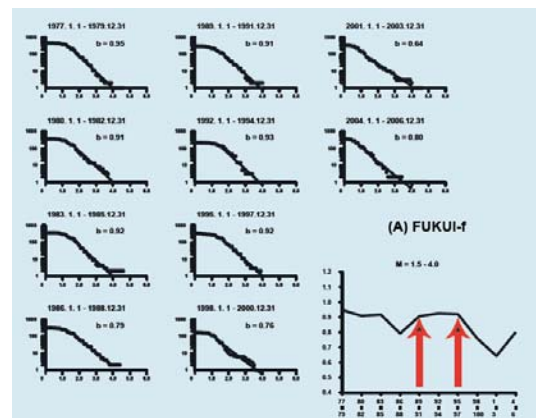


Fig.1 (Joint Hypocenter Determination) JHD による震源決定結果。データは Jan. 1976–Aug. 2007、 $M \geq 0$ 、total=59800

地震活動が集中している区域をいくつかに分け、それらの地域の地震活動時系列を明らかにすると

Fig.2 福井断層沿いの地震の3年間の b 値の



経年変化

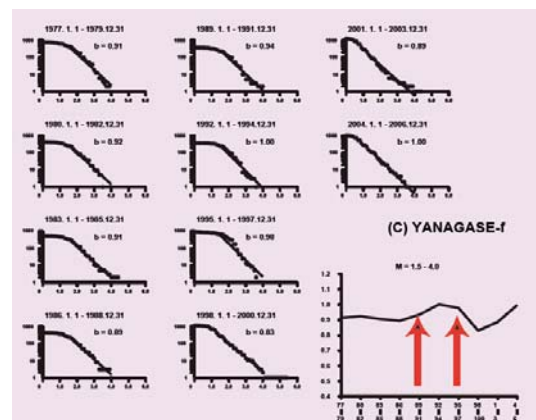


Fig.3 柳ヶ瀬断層沿いの地震の3年間の b 値の経年変化